



ライオン学校伝書鳩通信

～震災から3度目の新学期を迎えて～

市川さんにもう一度会いに行こう

2011年12月、大阪から900km以上の道のりを越えて、市川富美雄一座の皆さんが万石浦で公演をしてくださいました。あれから1年と少しの月日が経った2013年のお正月、ライオン学校の校長先生宅に市川さんから電話がかかってきました。「今年の4月20日に愛知県津島市で自主公演をするので、ライオン学校の皆さんもぜひ見に来てください。」ライオン学校の子どもたちが公演に招待されたのでした。しかし、遠方への旅費と旅行をサポートできるスタッフを十分に確保できなかったため、残念ながら全員を連れていくことはできません。そこで、春から中学2年生になる女の子、中学1年生になる男の子2人、小学校6年生になる女の子にライオン学校の代表として、愛知県に行ってもらうことにしました。私たちスタッフは打ち合わせを進め、新幹線のチケットを取り、公演の翌日には東京観光を行うことも決め、準備もそろった旅行の2週間前、ある事実が発覚しました。なんと、公演の日は中学校の授業参観日と重なってしまったのです。そこで急遽、行けなくなってしまった中学生たちは一座のみなさんに宛てた手紙を書き、その手紙を小学校6年生の女の子が代表して届けることにしました。「手紙は上手く書けるだろうか」「恥ずかしがり屋の小6の女の子はちゃんと手紙を届けられるだろうか」学生スタッフは少し不安を抱えながら支援の日を迎えました。

手紙を書こう～子どもたちの目から見た震災～

公演の前日、スタッフと中学生メンバーは一座の皆さんに宛てた手紙の準備をしました。手紙のテーマはみなさんへのメッセージ・最近の私・震災から2年1ヶ月経った万石浦の様子です。手紙に共通してみられたのは「市川さんにお会いしたかった、また会いましょう」「復興はまだまだです」という内容でした。今も3万人もの方々が仮設住宅で生活しており、仮設住宅の入居期間はさらに4年間まで認められるようになるなど、国の政策面での復興はなかなか進んでいるように思えません。また、被災した現場で生活している人々の中には、いま目の前の生活を送ることで手一杯であり、生活を立て直すことを考える余裕すらないように見える人々もいます。その様子を肌で感じている子どもたちは「復興はまだまだ」と思っているようです。また、子どもたちの口からは「瓦礫」の話も出ました。石巻の瓦礫を九州が受け入れなくなったこと、現在、山形県だけが受け入れていること、その事実に対し「放射能がなんだってんだ」と話していました。



また、ここ最近、東北地方では大きめな地震が頻繁に起こっていて、子どもたちはそのことに敏感になっているようです。手紙を書いている最中にサポートセンターが強風で揺れると、子どもたちは「地震！！」とすぐに反応し、「3.11 程じゃないから、大丈夫だ」と話し始めました。子どもたちは 3.11 の地震の感覚を覚えていて、その感覚を基準に地震の程度を判断しているようです。

こうしているうちに手紙は出来上がりました。スタッフはテーマを伝えただけで、特に手助けはしなかったのですが、原稿用紙一枚すべてを使ってメッセージを書いた子、得意の絵で気持ちを表現した子など思い思いの形で素晴らしい手紙が出来上がりました。以前は側に寄り添っている大人に手助けされながら、なんとか文を書いていたのですが、今回は自分の気持ちや状況を、自然と表すことができたようです。「一座のみなさんに会いに行きたかった」「みんなと旅行に行きたかった」という気持ちがあふれていたのだと感じました。また、震災の時や、その後の状況について、「誰かに伝えたい」という思いを持ち始めているのかもしれない。

大冒険の始まり～電車の中で話したこと～

翌朝、手紙を届けるという任務を任された小 6 の女の子と一緒に万石浦を出発しました。新幹線に乗るのも、東京に行くのも、愛知県に行くのも何もかもが初めてという大冒険の始まりです。久しぶりに会った女の子とスタッフは、移動の間に最近の出来事を話しました。女の子は現在、家族 7 人という少し窮屈な状態で仮設住宅に暮らしていますが、建設中だった新しいお家がいよいよ完成したそうです。できることなら、前のお家が建っていた同じ場所に建てたかったようですが、現在その場所は地盤がかなりゆるんでいて、とても家を建てられる状況にないそうです。「仮設を出たから、もう生活はもとどおり」というわけにはいかないと思いますが、少しずつ生活を立て直している女の子の家庭の様子を聞くことができました。

名古屋、津島での様子

朝早く万石浦を出発したので、お昼前には名古屋駅に到着です。長距離の移動で少し疲れている様子でしたが、公演までわずかながら時間があるので名古屋観光をすることにしました。向かったのは名古屋城。天守閣の最上階展望台に至るまでの各階にはたくさんの歴史物の展示があります。「そんなに面白いとも思わないだろうし、時間も押しているから展望台だけでいいか」とどんどん進んでいたのですが、意外にもその子は展示物に興味を示してひとつひとつ丁寧に眺めていました。みんなのいない一人旅だったからなのか、歴史を楽しみながら観光地をゆっくり巡るなんてこれまでのライオン学校の旅ではあまりなかったことなので少し感心してしまいました。名古屋城で名古屋の空気を感じたあと、ついに私たちは本来の目的地、津島市文化会館へと向かいました。

ライオン学校の代表をつとめるためにやってきた女の子は、津島に近づけば近づくほど

緊張のためかテンションがおかしくなっていました。「壇上に上がってあいさつしなくちゃいけないかも」「絶対やだ！むりむりむり！」なんて会話しているうちに津島市文化会館に到着。会場前は長蛇の列！さらに女の子のテンションが空回りします。ひとまず、会場に入って演劇を鑑賞。記念に思って撮る写真にも、髪の毛を前にたらし、まるで幽霊のようです(>_<)。そして贈呈用に自分で選んで用意したお花に、万石浦のみんなの手紙を乗せて運命の時を待ちます。公演終了間際、出演者がステージに並んだところで観客が一斉にお花やおひねりを壇上へと持って行き始めました。今だ！と女の子は支援者と二人飛び出して、舞台へ手紙の乗った花束を持っていきます。中々気付いてもらえずうろたえましたが、最後にはなんとか市川富美雄さんに直接渡すことができました。最後のあいさつではライオン学校の子も達からの手紙も紹介していただき、無事女の子の任務は終了しました。この経験でまたひとまわり成長したその女の子は、安堵と疲れの表情を浮かべながら横浜の校長先生のお家へと向かいました。校長先生のお家では大好きな猫に夢中になり、翌日の東京観光では初めての動物園で楽しみにしていたトラを見ました。今回の旅行に行けるのが、この女の子だけだと決まったとき、学生スタッフは皆、女の子は「行かない」と言うだろうと予想していました。しかし女の子は勇気を出し、家族から遠く離れた津島で見事に代表を務め、その後の東京観光も同年代の子どもや家族がいなくてもホームシックになることもなく、楽しむことができたのでした。



授業参観に行ってきました

市川さんの公演の日、何人かのスタッフは万石浦に行き、子どもたちの様子を見に行くことにしました。そしてこの日は中学校の参観日でした。私たちも子どもたちの家族に混じって授業を見に行きました。あるスタッフは、仕事で授業参観に行けないお父さんに「代わりに見に行ってきてよ」と頼まれもしました。中学生メンバーには新しく入学した子4人と、中2になった子2人がいて、中2の子のうちの1人は今年度から特別支援学級に進級しました。どの子も私たちがずっと気になっている子どもたちで、新学期をどのように迎えているか心配していました。クラスの子と仲よさそうに話している子もいれば、いつもは積極的に発言しているのに教室では静かにしている子、相変わらず教室内をうろうろしている子もいました。

特別支援学級では生徒1人、先生1人で授業をしていたのですが、担任の先生はその子とどのように接していけば良いか、真剣に考えながら授業をされていました。その子はこれまで学校の中に味方がおらず、「面倒な存在」として排除されてきました。学内でのそのような雰囲気はなくなっていないのですが、今回、唯一この子の味方になってくれるか

もしれない「担任の先生」という存在が現れました。私たちとその子の親との繋がりが増えてきたので、これからは学校とも連携を取りながら、その子が「自分の問題と向きあい、改善出来るような環境」をつくることができればいいと考えています。しかし、私たちと学校の間にある壁は厚そうなので、これからもその子にとって一番良い方法を模索し続けていこうと思います。

元気な小学生たち

今回、小学生には私たちが万石浦へ行くことを伝えていなかったもので、20 日の午前中は家庭訪問をしました。朝早く来たせい子どもたちはみんなパジャマでした。着替えをした子が続々とサポートセンターに集まってきて、外で走り回ります。鬼ごっこでは子どもたちの足が速くなりなかなか追い付けなくなってきました。昼食を取った後、予定では一度解散し、支援隊全員で中学校の授業参観を見に行く予定でしたが、残って遊んでいたいという子がたくさんいたので大学生一人が残ることに……。少し不安でしたが、高学年の子が決めたルールを低学年の子がしっかり守って遊んでいました。今回の支援は 1 日だけだったので解散するとき、「今日泊まって明日もやればいいじゃん」や「次いつくるの」といった声がたくさん聞こえ、支援を本当に楽しみにしている様子でした。遊んでいる様子や話した感じでは新学年になっていまのところみんなうまくやれていると感じました。



・寄付を頂いた方(3月10日～4月25日)敬称略:

浅沼蓉子、さくら亭

！寄付のお願い！

万石浦への交通費及び、活動費が必要です！継続的な支援のためにぜひ寄付をお願いします。ご寄付頂きました際には、お手数ですが右記連絡先まで一報お願いします。

ゆうちょ銀行

店名:〇五八店(ゼロゴハチ店) 店番:058

番号:普通 3385189

ライオン学校(ライオンガッコウ)

※ゆうちょ銀行からの振込の場合

記号:10510 番号:33851891

【活動記録】

○4月20日～21日 万石浦ライオン学校支援
□支援隊メンバー: 甘利悠貴、今井美里、
大林沙紀、古浦新司、
藤原弘輝、柿本隆夫、池田喬、
清水睦美、松永雅文

グループ名:ライオン学校

TEL: 080-6554-8762(代表:今井)

Email: info.lionschool@gmail.com